

第67回東葛しぜん観察会

春のきざしを見つけませんか

高橋 節（松戸市）

日 時：2011年2月6日（日）9:45～12:00 天気：晴

場 所：21世紀の森と広場

参加者：一般（大人）25名 指導員17名

担当指導員：高橋 節 池田稔夫 瀬谷 昭

小学校自然観察支援ネットワーク（SSN）の指導員を中心とした案内で観察会を行いました。この公園は松戸市のほぼ中央に位置し、松戸で一番緑の多いところです。公園になるその昔は、斜面林に囲まれた谷津で、豊かな湧き水を利用した田んぼでした。松戸で一番お米が採れたところだったそうです。1993年に開園した公園は50.5haで、常緑と落葉の樹木、野草、鳥、昆虫も多く、ペットや自転車を入れない、農薬を使わない自然尊重型の公園として「都市計画学会賞」を受賞しています。2004年の7月にオオタカの営巣が確認されてから今日まで、市民に親しまれている公園です。連日の寒さが和らいだ日曜日、野草園を中心に春のきざしを見つけに参加者とともに歩いてみました。

毛皮を着たコブシの花芽、赤いきれいな芽鱗に包まれ暖かくなるのを待ちわびている頂芽はミズキ、裸芽で大きく黄褐色の毛が密生しているオニグルミの頂芽は、1cmにも満たなくて、この特徴がよく見られなかつたのが残念でした。オニグルミの枝で葉痕をみつけ、「これは何ですか」と言う質問に、「オニグルミは複葉でその葉が落ちた後です」と説明したところ、複葉には奇数複葉・偶数複葉があると解説してくださる方がいて、連日小学校の観察会をしている私には、今日は大人の方の観察会だったと気づかされる一場面でした。ハンノキは今花真っ盛りで、雄花が赤く色づき落葉樹の中で今一番存在感を感じさせていました。オランダミミナグサ・ヨモギ・ギシギシ等のロゼットに手を近づけて暖かさを感じてもらい、根や芽はどっちから出るかというドングリクイズに挑戦、マヒワの群れやエナガ・コゲラ・セグロセキレイ・シジュウカラ・カワセミなど間近に見て感動、プロミナを通してオオバン・コガモ・オナガガモを観察し、冬鳥の渡りをする理由、鳥の飛ぶための工夫に耳を傾け、スズメクイズに盛り上がり、カラスやスズメの頭骨に触れて鳥の骨の軽さを体験、鳥の巣を見て大きさや子育てにしか使わないこと、材料など普段見られないものを観察していただきました。

参加者の感想：①楽しかった。自然にあまり関心がなかったが、

これからは興味をもって歩きたい。②スズメクイズは楽しかった。

普段よく見ているつもりでも見てないものですね。③ひとつのテーマで参加することがほとんどでしたが、今回のようにオールランド的に観察できたのは大変良かったです。④いつも歩いているだけで、今日は多くの発見がありました。立ち止まることも必要ですね。等の感想もいただき、皆さんとともに十二分に自然を楽しんだ2時間でした。お手伝いいただいた指導員の方々、お世話様でした。



オニグルミの葉痕は羊の顔？